

おお大勝利

平成 21 年度山東サッカー部報第 24 号 (11 月 17 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

一年生大会 堂々の完敗

11月14日(土)、15日(日)と村山地区の一年生大会が行われました。山東は一年生がそもそも10人しかいないため、当初から苦しい大会となることは予想されておりましたが、県新人戦で怪我人が2名、インフルエンザ1名出て、7名しかいない状態での試合となりました(ちなみにサッカーは7名以上いれば試合は成立します)。人数が少ないながらも、当初は、「少ないなら少ないなりの試合の仕方がある、こちらは失うものは何もなく、敵の方が勝って当たり前のプレッシャーがかかる、これは面白い戦いになる」と内心期するものがありました。が、一人抜け二人抜けするうちに、そもそも(インフルエンザに発症する者が他にも出たりして)試合が成立しなくなることへの不安や、人数が少なすぎてさすがに対戦相手に失礼ではないかという気持ちが芽生え、一年生に「(当日するくらいなら)早めに欠場を申し出ようか」と打診しました。すると普段は意思表示の少ないメッシが人一倍大きく首を横に振る。やはり毎年のことですが、一年生は一年生大会に出たいのです。当日欠席者が出ないことを願い、14日に山形中央のグラウンド向かいました。

一応、集合には7人全員が集まっており、試合は開始される見通し。あとは試合を無事乗り切り、欠場者を出さなければ、試合は最後まで成立。もちろんそうなれば、怪我人が出てもピッチ内には立たせておき、何としても試合を成立させなければなりません(あくまでこの試合のために集まってくださった対戦相手や審判へのエチケット上)。対戦相手は山形南。試合前には一応山南ベンチに人数不足を詫び、開始を迎えました。

試合が開始されると、スカスカの山東ゴール前に山南が攻め込む。しかしピッチが雨に濡れ、水溜りでボールがなかなか進まないコンディションが幸いして、ピンチをしのぎ続ける。山南は当初、敵の人数が少ないにもかかわらず、通常通りのスピーディーな攻撃をしようとするあまり、自滅気味。山東からすれば敵に助けられる展開。山東の布陣は3-2-1のシステム。3バック(2ストッパー&1スウィーパー)に2枚のボランチ、そして1トップ。さすがに苦しい。3バックも2ボランチも敵のアウトサイドの攻撃に対して、そのサイドに寄せる(ボールサイドに近づく)ものだから、逆サイドはスカスカ。しかし雨に濡れ重たくなったボールを一発で逆サイドに展開できる力は山南にもないものだから、そして当初、同サイドで攻め急ぐものだから、山東の少ない網にかかってくる。攻撃では、たびたび山南DFの裏や前に山東の選手が蹴ったロングボールが落ち、1トップでまさに孤軍奮闘していた多田がそれを拾おうと3、4人を相手に頑張ってくれる。いつかはやってくれるかも、というみんなの期待が前半の中盤、とうとう形になる!!ロングボールを敵と競り合い、自分のものにした多田が、もう一人のDFを引き連れながら強引にドリブル、そしてGKが前に出ているのを冷静に見ていたのか、GKの頭を軽々超える

ロングシュート。何と先制！！やってくれますね～、これで試合は俄然面白くなってきました。ゴール前を固め、山南のシュートをミドルシュートにさせ、何とかしのいで前半残り4分。「残り4分だぞ」という顧問の声が悪かったか。最後の最後に2発決められ、1 - 2で前半を終える。

後半は、山南がようやく落ち着いてピッチを広く使いボールを回して、数的優位な状況を「堪能」し始める。そうするともちろん山東は苦しい。後半も多田が一発を狙うも、そう何度も同じ手を喰う相手でもない。後半嶋貫を上げ、なけなしのツートップにし、一回ゴール前で見せ場を作りましたが、結局後半も2点入れられ、終わってみれば1 - 4。スウィーパーのメッシ、ストッパーの大築・有人の3人は体を張って守りましたし、GKのマサは公式戦(?)初出場ながら、大きな声でコーチングし、県サッカー協会副会長にして山東サッカーOB会のHP上で腹快調という異名で登場する奥山さんに褒められました。ボランチのカルロスことダイゾーは、DFラインの前で壁としてディフェンスをがんばっていました。

あえなく一回戦で敗れましたが、敗戦後、7人ながら先制し夢を見させてくれた一年制を晴れがましく感じました。敗れはしましたが堂々の敗戦といったところでしょう。私が山東に赴任してから4回目の1年生大会となりますが、そのうち2回は山形中央相手に0 - 5と0 - 6、1回は城北相手に0 - 5ですので、最も良いスコアでの敗戦となります。現3年生は、2年生の段階では1年生大会で破れた城北にリベンジ(練習試合)しましたし、現2年生は山形中央にこのたびの県新人でリベンジしました。一年生は今後、復活の機会があることを信じて、頑張ってもらいたいものです。